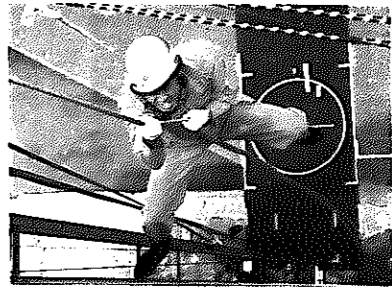


全国大会へ全力投球

白根地区消防署

八月二十五日、北九州市で行われる全国消防救助技術大会に白根地区消防署の加藤敏



昭さん(小須戸分署)、野内友晴さん(中之口分署)が出場します。二人は、七月六日に行わ

れた県消防技術大会の個人種目で上位入賞を果たし、東北地区大会へ。同地区大会で、加藤さんが一位、野内さんは四位に入賞し、全国大会へと駒を進めました。加藤さんは地上十五メートルの到達点まで手だけを張ってロープを登るロープ登はんの部に、野内さんは垂直はしごを十五メートル登るはしご登はんの部に出場。速さ・安全性・確実性を競います。全国大会へ出場するのは、白根地区消防署では初めての事。二人は「全国大会は、各地区のトップレベルが集まる大会。まずは全力で頑張ってきたいです」と意欲いっぱい語ってくれました。

社会を感じて進路決定を

白根高校卒業生見学会

進路の早期決定に役立てようと、白根高校の二年生約百二十人が七月二十一日、市役所、亀田製菓株式会社など市内の事業所を訪問。社員などから説明を受けました。これは同高校が「いきいきスクール・プロジェクト」の一環として市内事業所職場見学会と題して行ったものです。

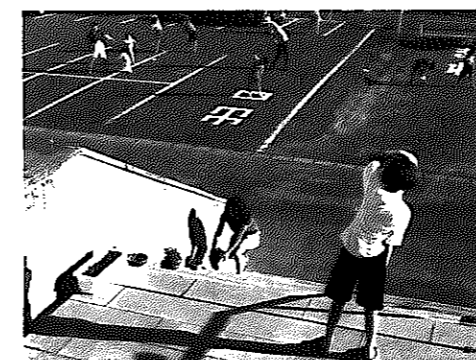
最初の訪問先は白根市役所。高橋収入役があいさつを兼ねて市の生い立ち、概要を説明。その後、人事担当職員が採用の方法、白根高校卒業生の採用実績などを説明しました。最後に「社会人となる皆さんには、あいさつを忘れないこと、勉強は一生続くことを肝に命じてほしい」などのアドバイスも付け加えられました。



高校生活も半分が過ぎ、そろそろ進路決定の時期。夏休みが終わり秋風を感じるころには、生徒たちの胸に新たな道が描かれていることでしょう。

ボランティアの芽は着草のころから、行動から

親和町・白新町子供会



市役所正面玄関に置かれたプランターや鉢の花が来庁者の目を惹きつけています。これは白根小学校の親和町・白新町子供会の児童たちが、夏休みのラジオ体操会場として市役所正面を使用することへのお礼として行ったものです。初日はプランターしか置かれていませんでしたが、六年生が家まで走って帰って鉢を持ってきた姿が下級生にも感動を与えたのか、翌朝ラジオ体操に来る子供の手には重そうな鉢が、また来た。

たくさんの友達、しくらぶいよ

わくわく大通っ子クラブ自由学習会



子供たちの夏休み期間中、「わくわく大通っ子クラブ(織田絹子代表)」が主催する自由学習会が、大通地域生活センターで行われました。同クラブは、「親も子供も地域の中でたくさん友達をつくって地域ぐるみで子育てをしよう」というお母さんたちのグループ。昨年の夏休みから口コミで地域の小学生を対象に自由学習会を開始。その後、冬休み、春休みと回を重ね、今回は平均して九十人余りの子供たちが集まる大規模な

ものになりました。学習会は、三日ずつに分けて九日間実施。一年生から六年生までの子供たちが八つのグループに分かれて活動しました。時間割には、自主学習や掃除、お年寄りの体を拭く布切れづくりなどをする奉仕活動が毎回組み込まれています。また、お楽しみ会やお宝探し探検などのゲームもあり、子供たちは大はしゃぎ。「散らかっている床を自主的に掃いたり、奉仕活動のポロ布をたくさん持つてきてくれた子供もいた。子供たちが自分のできる事が分かってきたのが、今回の大きな発見でした」と織田さんは話していました。

親が変われば子供も変わる

縁側なじりもフォーラム



市民グループ「縁側なじりもフォーラム」と白根地区公民館が共催した「縁側なじりもフォーラム」の中心の声が開かれます。八月十日、しろね大風と歴史の館で行われました。テーマは「青少年が健康やかに育つ環境づくり」。教育コンサルタントの中カツイさんをコーディネーターに、三人のパネラーがさまざまな事例を挙げながら話し合いました。「子供のあるがままの姿を受け入れることが大切」、「親が変わらなければ子供も変わらない」とい

出来上りが楽しみ

中央公民館親子オカリナ教室



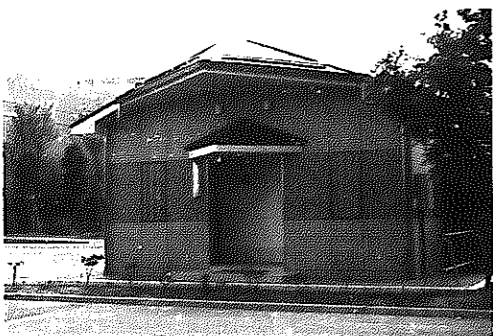
七月二十一日、八月三日、「親子の広場オカリナコース」が中央公民館で開かれました。これは、夏休みの自由製作の協力と思い出づくりを目的に同公民館が開いたもの。フルート・オカリナ演奏家の榎本正一さん(新潟市在住)を講師に、親子など約三十人が参加しました。一回目は穴を開けて音階づくり。それを陶芸グループが焼き上げて、二回目には色付けと最後の仕上げのニス塗りをしました。完成したオカリナを手に「音色が好きて吹けたらいいな」と思っていた

観光拠点がまた充実

しろね大風と歴史の館

しろね大風と歴史の館前に屋外トイレが新設され、来場者から好評を得ています。同館には県内外からたくさん観光客が訪れますが、中心は大型バスによる団体客。館内のトイレではすぐに満員になってしまふことから、同館が県の観光施設整備事業の補助金を受けて設置したものです。総工費は約一千二百万円。しゃれた薄ピンク色で、周りにはサンカヤツツジなど

も植えられました。来場者だけでなく総合公園に遊びに来た人たちも多く利用しているようです。同館は順調に来場者数が伸び、もうすぐ五万人を記録しそうな勢い。お盆で帰省した子供たちからは「お父さんのふるさとの歴史が分かってよかった」、「風作りは自由研究に役立った」などの声がかれました。今月行われるしろね・オータム・フェスティバルでは、市民有志、歴史の館友の会によるイベントも予定され、観



光拠点としてますます盛り上がりを見せます。初秋の大イベントが今から楽しみです。